

業務概要

目的

神奈川県ではバリアフリーの街づくりの一環で、障害当事者が参加するワークショップを開催している。それらのワークショップで適切にアドバイスできる障害当事者の人材育成を目的に研修を実施した。研修後は地域でのバリアフリーの街づくりにおいて、中心的な役割を担ってもらうことをねらいにしている。

研修カリキュラムの考え方

・障害当事者のニーズを伝える

自分のことだけを伝えるのではなく、同じ障害の他の人のニーズも代弁でき、ニーズの理由や背景などを説明できるようにする。

・自分とは異なる障害当事者のニーズも理解し、お互い尊重する

他の障害当事者との意見交換や疑似体験でお互いのニーズの違いを知り、なぜそのような整備が必要かの理解を深め、お互いのニーズを尊重した上で、バリアフリーの街づくりのアドバイスができるようにする。

・相互理解のプロセスを身につける

ニーズの違いを知り、理解を深める手法・プロセスを修得できるようにする。理解を生むためには、ニーズの理由や背景を引き出し、バリアフリーについて参加者全員が意見交換できるように心がける等の実践を行う。

研修の概要

参加者(全36名)

障害当事者18名(車いす使用者9名、視覚障害者2名、聴覚障害者5名、オストメイト・透析患者各1名)、障害のない参加者10名、ピアアドバイザー3名(参加の街づくり経験豊富な障害のある人)、ファシリテーター3名(アークポイント、プレイス)、主催者2名。

各回プログラム(全4回実施)

第1回研修「街づくりのバリアフリー／ユニバーサルデザインとは」

自分とは異なる障害者や障害のない参加者が、多様な障害を理解し、街づくりの中で何に配慮し、バリアフリー／ユニバーサルデザインの街として、どのような街づくりが望ましいのか、課題認識を共有する。

第2回研修「バリアフリーの相互理解のためのまち歩き」

車いす使用者と視覚障害者のニーズが異なる歩車道段差を、お互いの障害を疑似体験して、理解を深める。また聴覚障害者が他の障害を疑似体験し、困難の重篤さを体験するなど、相互理解を目的としたワークショップを実施した。

第3回研修「障害当事者発想型ワークショップのプログラムの作成」

バリアフリーの街づくりで障害当事者が真に伝えたいニーズなどを、効果的に伝えられるワークショップの企画を検討し、実際のプログラムを作成する。

“何を、どのように伝える”かを検討し、具体化する。

第4回研修「障害当事者発想型ワークショップの実施」

参加者自ら企画したワークショッププログラムを実施する。例えば、視覚障害者が、言葉の説明で、目的地まで歩けるために、どのような手がかりを伝えることが役立つか、といった「言葉の地図」の提案が視覚障害者から出され実施された。



聴覚障害の講師の手話の講義



歩車道の段差について視覚障害者が車いす体験して意見交換



当事者発想のプログラムの検討